

12240人(15.4%)、学業不振11503人(14.5%)、就職10627人(13.4%)と続く。進学を目標として長年にわたって勉強し、受験という関門を潜り抜け、ようやく入った大学を経済的な理由で退学・休学せざるを得ないとはなんと無念なことだろうか。

明確な他の目的があつての退学であればまだしも、中退した後の就職活動には厳しい現実があるようだ。現役からの就活が出来ないこともあり、正規社員になるハードルはかなり高くなってしまう。結果として、生涯賃金にも大きな影響をもたらすことになってしまふし、「こんなことなら高卒で正規社員になつておけば」という声さえ聞こえてくる。お金の問題だけではないが、進学した以上は何としても卒業 자체が目的ではない筈で、別の視点で見れば、ゴールではなく、社会人としてのスタート位置に立つことなのだが…。

【雇用形態別に生涯年収・生涯賃金】

	男性	女性
正規雇用	1億7,801万円	1億3,052万円
非正規雇用	9,815万円	8,400万円

*出典「賃金構造基本統計調査」正規・非正規データの23歳から59歳までを加算算出。(平成24年)

卒業までの主な費用をまとめたので、参考にしていただきたい。あくまでも概算であるが、いつ・何に・どれだけかかるかの一応の目安にはなる筈だ。

参考:必要資金額【前提:4年制大学・私立文系・首都圏・アパート生活】

時期	主な費目	内訳	概算費用
受験から合格まで	受験費用	募集要項代・受験料	101,800円
	その他費用	受験旅費・宿泊	148,000円
合格から入学まで	学校納付金	入学金・授業料1年分・施設設備費・実験実習費	1,153,000円
	住居関連費	敷金・礼金、仲介手数料・引越し費用、家財	606,500円
	その他雑費	教科書、スーツ・衣服・保険料、生協その他	397,600円
学生生活にかかる費用	授業料等	2年次以降の授業料3年分	4,009,800円
	生活費	食費日用品・家賃・光熱、保険衛生・お小遣い	5,508,480円
合計			11,925,180円

区 分	資金合計	月額収入
一時収入	自己資金	840,000
	教育資金贈与	520,000
	学資保険等	2,000,000
	教育ローン	0
毎月収入	家庭から仕送り	2,880,000 (60,000)
	奨学金(日本学生支援機構)	4,800,000 (100,000)
	アルバイト	960,000 (20,000)
	その他	0
合計		12,000,000 180,000

志望する学校の種類や地域によって必要資金は大きく異なってくる。受験に始まり卒業までの間にかかる費用の総額を先ずは知らなければならない。学校学部・国公立・私立・自宅通学・アパート・寮の違うなどでその費用は大きく異なるからだ。表中に受験か

資金計画は大丈夫だった筈なのに、世の中どんなアクシデントが起きるか分からぬ。忘れもしない東日本大震災の惨劇は、世帯の収入が失われたり、保護者の命が奪われたりと、多くの学生にも大きな影響をもたらした。このような大災害下でも、「あしなが育英会」などの支援を受けながら頑張っている学生も少なくない。短絡的な言い方をするんじゃない「とお叱りを受けるかもしねないが、心さえ折れなければ、手段はある筈だ。

私立文系で首都圏に在住し、アパート生活を送る学費・生活費の総額はおよそ1200万円になる。この金額を、秋田県の平均的なサラリーマン家庭の所得から、その全てを賄うのは至難の業だし、ましてや子供が二人三人ともなればなおさらだ。資金を必要とする直前ではなく、最初から子供の人数を考慮した教育費の総額を把握し、それぞれの子供に対する保護者の負担できる範囲と、その他の手段による調達方法を想定して置かなければならぬ。参考までに、文科省の学生納付金等調査結果および日本学生支援機構の学生生活調査などを参考に、一定の条件を元に試算してみたので参考にしていただきたい。

災害などのアクシデントも然ることながら、ここで取り上げたい経済的な問題は、想定されるはずの教育資金の必要額が把握されないまま見切り発車し、中途で資金が枯渇し、道半ばにして断念するケースだ。これらの場合であつても、方法が無いわけではない。教育資金に関しては様々な支援制度もあるし、学校や行政機関など相談しながら継続の方法を模索するべきだ。

これから進学される方の資金プランニング

志望する学校の種類や地域によって必要資金は大きく異なってくる。受験に始まり卒業までの間にかかる費用の総額を先ずは知らなければならない。学校学部・国公立・私立・自宅通学・アパート・寮の違うなどでその費用は大きく異なるからだ。表中に受験か

資金調達の方法を考える

費用の総額が見えたところで、その資金をどうやって調達するのか…? それぞの家庭環境は当然に違うしこれといつ正解もないのだが、主な調達方法としては、①学資保険、②預貯金、③教育資金贈与(祖父母など)、④家計からの仕送り、⑤教育ローン、⑥奨学金、⑦本人のアルバイト収入、⑧その他が挙げられる。前段での1200万円を例に、その資金調達の配

来月号は

いよいよ2016年も残りわずか、申年(サル)から酉年(トリ)へ、2017年を迎えるにあたつて来る年がケツコウな年であるよう展望してみよう。

教育資金の準備は、保護者がその全てを準備するものだと思っている向きもある。極端なケースでは”家にはそんな余裕はないからムリムリ”と最初から選択肢を持たない方も少なくない。確かに大学生を持つ家庭の收支は厳しいものがあることも事実だが、保護者が資金の全部を捻出しなければならない訳でもないし、進学そのものを排除してしまうのは何か避けたいものだ。以前、秋田市内の居酒屋で、いかにも学生アルバイトらしき店員に話しかけたら、県外から来ていて、親の支援は殆ど得られず、奨学金とアルバイトによって自力で大学生活を送っているという頑張り屋さんもいた。為せば成るものだ。

奨学金の中には、貸与だけではなく給付型(返さなくて良い)もあるし、志のある有望な若者の方の将来への目標を果たすためなんとか実現方法を見出したい。ちなみに、最も代表的な日本学生支援機構の奨学金(第二種利息の付くタイプ)は学生が借りて学生が返済するもので、月額3000円、50000円、80000円、100000円または120000円の貸与を受けられる。

奨学金といえども借金には変わりがなく安易に進めるものではないが、夢の実現のために選択肢の一つだ。保護者のみならず学生本人の自助努力も含め、卒業するまでの学生生活を不安なく過ごすため、資金調達の方法を含めた、進学への情報を家族間で共有するための話し合いを持つて欲しいものだ。

●経済的な理由の中退の回避

参考:必要資金額【前提:4年制大学・私立文系・首都圏・アパート生活】

時期	主な費目	内訳	概算費用
受験から合格まで	受験費用	募集要項代・受験料	101,800円
	その他費用	受験旅費・宿泊	148,000円
合格から入学まで	学校納付金	入学金・授業料1年分・施設設備費・実験実習費	1,153,000円
	住居関連費	敷金・礼金、仲介手数料・引越し費用、家財	606,500円
	その他雑費	教科書、スーツ・衣服・保険料、生協その他	397,600円
学生生活にかかる費用	授業料等	2年次以降の授業料3年分	4,009,800円
	生活費	食費日用品・家賃・光熱、保険衛生・お小遣い	5,508,480円
合計			11,925,180円

教育資金の準備は、保護者がその全てを準備するものだと思っている向きもある。極端なケースでは”家にはそんな余裕はないからムリムリ”と最初から選択肢を持たない方も少なくない。確かに大学生を持つ家庭の收支は厳しいものがあることも事実だが、保護者が資金の全部を捻出しなければならない訳でもないし、進学そのものを排除してしまうのは何か避けたいものだ。以前、秋田市内の居酒屋で、いかにも学生アルバイトらしき店員に話しかけたら、県外から来ていて、親の支援は殆ど得られず、奨学金とアルバイトによって自力で大学生活を送っているという頑張り屋さんもいた。為せば成るものだ。

奨学金の中には、貸与だけではなく給付型(返さなくて良い)もあるし、志のある有望な若者の方の将来への目標を果たすためなんとか実現方法を見出したい。ちなみに、最も代表的な日本学生支援機構の奨学金(第二種利息の付くタイプ)は学生が借りて学生が返済するもので、月額3000円、50000円、80000円、100000円または120000円の貸与を受けられる。

奨学金といえども借金には変わりがなく安易に進めるものではないが、夢の実現のために選択肢の一つだ。保護者のみならず学生本人の自助努力も含め、卒業するまでの学生生活を不安なく過ごすため、資金調達の方法を含めた、進学への情報を家族間で共有するための話し合いを持つて欲しいものだ。